

14	株式会社朝一番	29	郵船ロジスティクス・ブラジル※
15	ゆあさ農園		

※企業の希望により、別日にて商談を実施。

関係機関

No.	機関名	No.	機関名
1	農林水産省輸出・国際局	4	在日ペルー大使館
2	農林水産省農林水産政策研究所	5	駐日ブラジル大使館
3	国際協力機構	6	World Trade Foods&Beverage



中南米ビジネス産学官交流会の様子



集合写真（午前の部）



集合写真（午後の部）

6) 実施概況

- 昨年度の産学官交流に参加した中南米事業者は、日本に対して販売・輸出したいという企業と、日本から購入・輸入したい企業が混在し、商談相手を探す上でも容易ではなかった部分があった。そのため、今年度はよりビジネスが成立しやすい環境を創出するために、日本から食料品等の購入・輸入を希望する事業者にはフォーカスすることとした。
- 参加した事業者は、日本食料品の輸入に関する経験を持ち、なかには25年以上のインポーター歴を持つ参加者もあり、高い確率で商談の成立が期待できる他、別の参加者との情報交換自体も有益な機会となった。中には日本食レストランを営んでいる参加者もあり（2名）、食料品に加えレストランの厨房で使われる機械（巻き寿司メーカー、おにぎりメーカー、餃子メーカー、麺の水切り機等）や食器などの購入も目的としていた。
- 今回のコースでは、11月20日のフードテックWeek東京、11月26日の中南米ビジネス産学官交流会、11月27日の日本の食品輸出EXPOの日程は事務局側で組むこととし、その他の日程は「各自商談・市場調査」として、参加者が各自で希望する訪問先をセッティングできるようにし、より自由度の高い設定とした。訪問のセッティングにサポートが必要であれば、事務局が連絡をサポートして訪問先のアポイントを取り付けた。
- 11月26日の中南米ビジネス産学官交流会は東京虎ノ門で開催。参加企業をウェブ上で募集した結果、日本企業26社が参加することとなった。応募企業が多数であったため、開催時間を午後のみではなく午前（10:00-13:30）と午後（14:00-17:30）のセッションに分けて開催した。各日本企業が2社以上と商談できるようにセッションを組むと共に、空き時間に中南米について相談できるような相談窓口も設置した（World Trade Food & Beverage社、国際協力機構JICA、中央開発株式会社）。中南米ビジネス産学官交流会に参加した日本企業は、中南米ビジネスにこれから挑戦したいという企業が多く情報収集が主な目的であると見受けられたが、中にはすでにブラジルと取引のある企業もいて、積極的に売り込む姿勢も見られた。当日に参加できない企業（3社）についても、オンライン商談や別日での商談の機会を設け、柔軟な調整を心掛けた。
- 中南米事業者からは、日本の食品輸出EXPOが特に有益であったという声が多く、なかにはその場で注文を確定させた事業者もいた。さらに、より確度の高い商談は各自商談で行われる傾向にあり、スケジュールを組む上で各自商談の日を設ける重要性が確認された。
- 成果として、ビール・ウイスキー・日本酒等の酒類の輸入に向けて現在3社が手続きを進めている。Siscorというブラジルでの輸入に必要な商品登録や原産地証明書といった書類手続きが進行中であるため、商談に関して具体的な数量・金額は決まっていないものの、商談成立に向けて順調に進んでいる。
- お菓子やスナック、調味料、乾麺等に加え、ホタテなど海産物の輸入を希望する事業者もいるものの、現在の規制では二枚貝は輸出不可となっており、また芋焼酎もメチルアルコール濃度規制のためブラジルでは輸入ができない状況にある。このような規制が輸出促進の妨げとなっており、課題である。

ると参加者の間で議論がなされていた。調理機械に関しては、金額で高くつくことはもちろん、仕様（機械規格）の面で日本メーカーが海外展開（特に中南米）向けに準備ができていない面も見受けられた。

7) 参加者報告書（抜粋）

①ゼンダイ社（ブラジル）

市場調査を通してブラジルへ輸入したい新規商品を見つけることができた。日本の食品輸出EXPOでは4社と、産学官交流会では9社と商談を行い、商品の注文もできた。現在何社かに見積も依頼しており、帰国後交渉を続ける予定。新しい企業とのネットワーキングに加え、既存のパートナー（商社）とも会議を行い、今後のビジネスの方針について話すことができた。今後もより多くの日本食品をブラジル市場に届けることで、ビジネスを通して、日本とブラジルの関係強化に貢献したいと考えている。

②ヤマト商事（ブラジル）

今回は厨房用の機械と海産物のリサーチが主な目的であった。この二つの目的に関してはそれほど大きな成果はなかったが、日本の食品輸出EXPOおよび産学官交流会で行った商談を通して、ビジネスを成立する可能性の高い企業と出会うことができ、新規商品の輸入を交渉中。また、多くの企業に見積を依頼しており、価格などを確認した上で今後検討を行う。全体的なコメントとして、このプログラムはとても生産的で貴重な経験であった。

③ニッポンベビーダス社（ブラジル）

日本の食品市場と新規商品について学ぶ貴重な機会であった。日本酒やジン、ウイスキーの輸入を主な目的に多数の企業と商談を行ったが、そのうちの5社と現在交渉が進んでおり、新規商品を輸入する予定。日本の食品輸出EXPOおよび産学官交流会で出会った企業には見積を依頼しており、価格や輸入条件を確認し、ビジネスの可能性を検討する。

④パラナトレーディング社（ブラジル）

日本の食品は、使用される原料やパッケージも含め、非常に品質が高く、全体的な印象として革新的な食品市場であると感じた。今回は複数の企業と商談を行い、サンプルもいただき、今後輸入について交渉を行う予定。日本の企業とビジネスを成立させるためには商社のサポートが重要なポイントだと感じたため、商社との交渉も今後進めて行く。今回の来日では、日本のパッケージや様々な機械（自動販売機、ごみ処理機など）を取り扱う企業とも話すことができ、ブラジルの他の輸入会社にもそれらの商品を紹介したいと思う。

⑤エドグループ（ペルー）

菓子類や乾麺、巻き寿司メーカー（機械）や食器の輸入が主な目的であり、今回はそれらの商品を中心に市場調査を実施した。また、ペルーでは近年おにぎりが流行しており、おにぎりを作る機械やのり付きの包装フィルムを製造する企業と商談を行った。ペルーへは10年以上日本食品を輸入しているが、日本側で新たな輸入パートナーを探したく、本事業の他の参加者等に紹介していただいた商社ともミーティングを行い、提携の可能性について話し合いをした。今後はペルーで提供する日本食品の多様化を目指しており、今回の来日で出会った新規商品の輸入にも力を入れていきたい。

(4)② ビジネス交流の実績調査

令和4年度事業では、平成25年度～令和3年度の事業で行ったビジネスマッチング等に参加した日本企業の動向調査を行い、中南米地域とのビジネスの状況を確認した。今回は過年度事業や令和5年度、令和6年度事業のビジネスマッチングに参加し、ビジネスが進行中である企業の状況を以下のとおり整理した。

日本企業

No.	企業	内容
1	飲料企業	平成25年度の中南米視察に参加。 2013年にブラジル・インテグラダ農協を本事業で訪問し、その後の商談の結果2015年にオレンジ果汁の輸入となったものの、代理店経由の取引で中断していた。 令和4年度の動向調査の過程で再度マッチングの機会を2023年3月に設け、その後に良好な関係を構築し、2023年はオレンジ果汁800トン、2024年は200トンの成約となった。世界情勢としてオレンジ生産量の減少により、オレンジ果汁の供給が逼迫し価格も高騰している。そうした情勢にありながら日系農協からオレンジ果汁を供給してもらえることは、本事業のネットワークが活用された好事例だと言える。
2	農業機械企業	平成28年度の中南米視察に参加。 ブラジル・イビウナ農協で試験運転（デモンストレーション）を行い、作業負担が小さく移植精度も高いと評価され、モニターとして貸与した結果、ロコミが広がり日系農業者に導入されるようになった。2021年時点で累計52台が販売。2025年2月からボリビアのサンフアン農協からの問合せで、田植え機やコンバインハーベスターに関する商談が進行中。

3	有機性廃棄物 発酵処理機械 企業	令和4年度の中南米視察に参加。 商談したブラジルのバストス地域鶏卵生産者協会とは継続して連絡は取り合っており、令和6年度事業の訪日研修内でも同協会からの参加者含む循環型農業コースが有機性廃棄物発酵処理機械を視察。2025年2月にはWorld Trade Food & Beverage社の紹介によりブラジルの養鶏場を訪問。さらにパラグアイの前原農商を訪問し、導入を前向きに検討してもらえているとのこと。
4	農作業用具企業	平成31年度の中南米視察に参加。 2020年に果樹用保護袋の取引が成立し、20フィートコンテナ1本分をブラジルに向けて輸出した他、ブラジルの農作業道具輸入企業と100ケース程度の農業用はさみの取引を開始。2024年もブラジルでの展示会に参加する等、営業活動を進めている。
5	葉面散布肥料 (株式会社パル サー・インター ナショナル)	令和6年度の中南米視察に参加。 原料製造元であるブラジルパートナー企業に対して日系生産者から製品1000L(約100万円)の発注があった他、サンプル品の注文が1850L分あり、今後の事業拡大が期待される。

中南米企業

No.	企業	内容
1	ペルー冷凍フルーツ輸出企業	令和5年度の産学官交流に参加。 2024年からペルー産冷凍マンゴーの輸出を日本商社と開始し、2025年には別の日本商社とも取引が開始。冷凍マンゴーに加えて他の冷凍フルーツ(イチゴ、ブルーベリー、アボカド)も成約し、2025年は合計で24コンテナ(40フィート)の輸出が予定されている。
2	ブラジル日本食品輸入企業	令和6年度の産学官交流に参加。 生麺やカレー、桃ジュースの輸入が2025年に開始。クラフトビールの輸入手続きが現在進行中。
3	ブラジル日本食品輸入企業	令和6年度の産学官交流に参加。 新たに輸入が決まった日本酒は2025年4月到着予定で、最初は1パレット分。ホタテはSISCOLE登録の申請中。
4	ブラジル日本酒類輸入企業	令和6年度の産学官交流に参加。 日本酒・ウイスキー・ジンなど、訪日中に商談した企業と輸入に向けてSISCOLE登録や分析証明書、原産地証明書などの書類手続きを進めている。既存取引先からはすでに新商品の輸入が開始。

(5) 中南米現地におけるビジネスセミナーの開催

(6) 官民合同の二国間会議の開催

農林水産業・食産業分野での戦略的ビジネス環境を整備し、日本の食品輸出促進や農林水産業・食産業の海外展開を推進するため、官民合同の二国間会議を日本(5月)とブラジル(9月)で2回開催した。なお、(5)中南米現地におけるビジネスセミナーの開催は、事業担当者と協議の上で、9月11～12日にブラジル側で開催した第5回日伯農業・食料対話「官民合同ビジネスセミナー」を充てることとした。²

1. 日本開催(高級実務者会合)

1) 基本情報

日程	①令和6年5月23日(木)10:00-15:20 高級実務者会合 ②令和6年5月23日(木)16:30-20:00 官民合同ビジネスミッション ③令和6年5月24日(金)9:30-20:30 現場視察
対象国	ブラジル
場所	①農林水産省4階イコルーム、②在京ブラジル大使館 ③埼玉県・茨城県
参加者	- ブラジル農業・畜産省、在京ブラジル大使館、食品団体 - 農林水産省、国税庁、JICA、民間企業

² 別業務「令和6年度食産業の戦略的海外展開支援委託事業(第5回日伯農業・食料対話における官民合同ビジネスミッション委託事業(ブラジル連邦共和国)」の事業予算と合同で実施した。詳細は同事業の報告書に掲載。

内容	①日伯農業・食料対話 高級実務者会合 ②官民合同ビジネスミッション ③現場視察（ヤマザキライス、農研機構 農業生物資源ジーンバンク）
言語	日・ポルトガル語同時通訳

2) プログラム

①高級実務者会合（SOM 会合）

No.	時間	内容	担当
1	10:00-10:20	開会	駐日ブラジル大使
2	10:20-10:40	日本側議題①：ブラジルから日本への穀物の安定供給	農林水産省
3	10:50-11:20	ブラジル側議題①：G20 農業大臣会合	ブラジル農業・畜産省
4	11:20-11:50	日本側側議題②：日本産食品・酒類の輸出促進のための環境改善	国税庁
5	11:50-12:20	ブラジル側議題②：両国間の貿易関係の強化	ブラジル農業・畜産省
6	14:00～14:30	日本側側議題③：土壌改良技術など持続可能で生産性向上に資する技術協力	JICA
7	14:30～15:00	ブラジル側議題③：気候変動に対する回復、持続可能な生産システム構築に向けた技術	ブラジル農業・畜産省
8	15:00～15:20	閉会	



高級実務者会合の様子



会合終了後の記念撮影

②官民合同ビジネスミッション（在京ブラジル大使館）

No.	時間	内容	担当
1	16:30-16:35	開会	ブラジル大使
2	16:35-16:45	挨拶	農林水産省 ブラジル農業・畜産省
3	16:45-8:05	日伯ビジネス戦略的パートナーシップ 丸紅、豊田通商、ニッスイ、大海酒造、バイオシー ドテクノロジーズ、海外駐在代行、ブラジル農業・畜 産省、ブラジル牛肉輸出業協会 ABIEC、ブラジル動物性タ ンパク質協会 ABPA、ゼンショー	民間企業
4	18:05-18:20	質疑応答	
5	18:20-18:30	閉会	農林水産省 ブラジル農業・畜産省
6	18:30-20:00	カクテルレセプション	ブラジル大使館



官民合同ビジネスミッションの様子



カクテルレセプション

③現場視察

No.	時間	内容	備考
1	8:00	ホテル出発	マイステイズプレミア赤坂
3	9:30-11:30	ヤマザキライス	乾田直播栽培
4	12:30-13:30	昼食（ポケットファームどきどき つくば牛久店）	
5	14:00-15:30	農研機構 農業生物資源ジーンバンク	スマート農業・遺伝資源
6	16:00-17:00	（キャンセル）国際農林水産業研究センター JIRCAS	大豆さび病・BNI 小麦
7	19:00-20:30	夕食会 とうふ屋うかい	芝公園
8	20:45	ホテル到着	



農業用ドローンの実演



ヤマザキライスでの農業者との意見交換



農研機構 農業生物資源ジーンバンク

2. ブラジル開催（第5回日伯農業・食料対話）

1) 基本情報

日程	①令和6年9月11日（水）9:00-13:00 官民合同ビジネスセミナー ②令和6年9月11日（水）13:00-15:00 日本農林水産物のPRレセプション ③令和6年9月12日（木）現場視察3コース
対象国	ブラジル
場所	①②サンパウロ州サンパウロ市チボリホテル、③3コースで異なる
参加者	合計162名 日本側政府関係者25名、ブラジル側政府及び州政府関係者18名、民間企業等101名、事務局側関係者18名
内容	第5回日伯農業・食料対話 ①官民合同ビジネスセミナー ②日本農林水産物のPRレセプション兼ビジネスマッチング ③現地視察（3コース）
言語	日本語・ポルトガル語同時通訳

2) プログラム

①官民合同ビジネスセミナー

No.	時間	内容	担当
1	9:00-9:15	開会	農林水産省
2	9:15-10:30	議題1：穀物の安定供給 ①穀物の安定輸入のための施策について ②SFDS港の重要性と課題について ③SFDS港 サンタカタリーナ州最大の港 ④イタキ港の重要性と課題について ⑤日本、マラニョン州、イタキ港の貿易関係 ⑥ALZとサントス港について 質疑応答	農林水産省 Terlogs/Marubeni Graos サンタカタリーナ州政府 NovaAgri 社 マラニョン州政府 全農グレイン社
3	10:30-11:45	議題2：持続可能な農業技術 ①農業技術に係る日伯の連携について ②日本とブラジル農業における技術、持続可能性を向上 ③先駆的&持続可能なプロセス 持続可能な農業 ④気候変動に対する取り組み ⑤持続可能な農業技術	農林水産省 AgroNIBRA 社 CAMTA EMBRAPA JICA ブラジル
4	11:45-12:40	議題3：両国の輸出関係強化 ①日本市場への期待	農務省

		②ブラジル市場への期待 ③ブラジルでの焼酎の輸出促進について ④水産物の輸入について ⑤食肉産業の機会とパートナーシップ	JETRO サンパウロ 国税庁 Nordsee 社 JBS 社
5	12:40-13:00	閉会	ブラジル農業・畜産省



諸永裕一参事官挨拶



マラニョン州カルロス・ブランドン知事



CAMTA 渡辺勝人エジムンド 専務理事

②日本農林水産物の PR レセプション兼ビジネスマッチング

No.	時間	内容	担当
1	13:00-13:05	挨拶	坂本農林水産大臣
2	13:05-13:35	ホタテ、カキ、ブリの新メニュー発表と焼酎の紹介 白石テルマ／チアゴ・カスターニョ／飯田アレシャンドレ	担当シェフ
3	13:35-13:40	フォトセッション	
4	13:40-13:45	乾杯の挨拶	坂本農林水産大臣
5	13:45-15:00	レセプション	
6	15:00	閉会	



坂本哲志農林水産大臣挨拶（当時）



ブラジル人シェフによる新メニュー紹介



大臣による日本の酒類の試飲

③現場視察 3 コース（9 月 12 日）

No.	コース	内容	場所
1	穀物の安定供給	サンタカタリーナ州サンフランシスコドスル（SFDS）港で運営されている Terlogs 社のターミナルを視察	サンタカタリーナ州 サンフランシスコドスル市
2	日伯二国間の貿易関係強化	日系の大手小売チェーン本社（ヒロタ）やモデル店舗訪問を行い、小売り店経営の仕組みや状況について視察	サンパウロ州 サンパウロ市
3	持続可能で生産性向上に資する農業技術協力	ブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）の南東牧畜研究所を訪問し、森林と牧畜の共存を図り持続的な農業（ICLFS：統合型作物・家畜・林業システム）についての研究を視察	サンパウロ州 サンカルロス市



サンフランシスコドスル港視察



ヒロタ店舗視察



ブラジル農牧研究公社 南東牧畜研究所

(7) 日系農業者等に関するデータベースの構築

中南米とのビジネスに関心を有する日本企業への情報提供を目的とした日系農業者団体のデータベースの更新を行った。各団体に質問票を送付し、以下の情報を取りまとめた。団体数は合計 45 団体で、内訳はブラジル 29 団体、アルゼンチン 3 団体、パラグアイ 7 団体、ボリビア 2 団体、ペルー 2 団体、コロンビア 1 団体、メキシコ 1 団体。

[1] 組織の概要

組織名、代表者名、組合員人数、職員人数、設立年、年間売上、設立年、組織紹介文、住所、電話番号、E-mail、ウェブサイト、研修への参加

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物（作物、生産面積、生産量、データ年）

2-2 栽培カレンダー（植付/剪定・収穫時期）

2-3 農産物・加工品の輸出（作物・製品、輸出先、量）

2-4 農業生産以外の活動

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

3-2 ニーズのある分野・課題（分野、対象、課題、解決策）

3-3 関心のある技術・製品

3-4 日本企業への期待

日系農業者団体データベースの詳細は別冊の事業実施報告書資料編に記載する。データベースについては事業ウェブサイト上に掲載し、中南米とのビジネスに関心を持つ企業が本事業対象の日系農業者団体の情報を閲覧できるようにした。

事業ウェブサイト URL <https://www.nikkeiagri.jp/>

中南米日系農業者団体データベース

中南米には200万人を超える日系社会が存在します。地球の反対側で距離は遠いですが、日本文化を継承する中南米日系社会は近い価値観を共有できるパートナーです。そして近年、中南米は日本企業にとっての新たな海外市場として期待が高まっています。

本事業では日本企業と中南米日系農業関係者との連携やビジネス創出に取り組んでいます。

今回、中南米日系農業関係者とのビジネスに関心のある企業向けに、中南米日系農業者団体のデータベースを作成しました。データベース全体版から各団体のより詳細な情報を閲覧することができます。さらに各団体名をクリックすることで、該当ページを直接開くことができます。

データベース全体版

農産物						
<input type="checkbox"/> 野菜 <input type="checkbox"/> 果物 <input type="checkbox"/> 穀物 <input type="checkbox"/> 茶 <input type="checkbox"/> 卵 <input type="checkbox"/> 肉 <input type="checkbox"/> 木材 <input type="checkbox"/> カカオ <input type="checkbox"/> コーヒー <input type="checkbox"/> 綿 <input type="checkbox"/> さのこ <input type="checkbox"/> 花卉 <input type="checkbox"/> ナッツ						
ビジネス希望						
<input type="checkbox"/> 包装 <input type="checkbox"/> 品質管理 <input type="checkbox"/> 農業資材 <input type="checkbox"/> 農業道具 <input type="checkbox"/> 土壌 <input type="checkbox"/> 種苗・品種 <input type="checkbox"/> 加工 <input type="checkbox"/> 農業 <input type="checkbox"/> 輸出 <input type="checkbox"/> 洗浄 <input type="checkbox"/> 精密農業 <input type="checkbox"/> 害虫・害獣 <input type="checkbox"/> 肥料 <input type="checkbox"/> 環境対策 <input type="checkbox"/> 農業機械 <input type="checkbox"/> マーケティング <input type="checkbox"/> 選別・規格化 <input type="checkbox"/> 飼料 <input type="checkbox"/> 鮮度保持 <input type="checkbox"/> 認証 <input type="checkbox"/> 保管 <input type="checkbox"/> トレーサビリティ <input type="checkbox"/> 灌漑 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 未選択						
国	地域	市	団体名	主な農産物・活動	ビジネス希望	ページ
ブラジル	パラ州	トメアス	①トメアス農協(CAMTA)	アサイー、アセロラ、カカオ、クプアス、胡椒	認証、保管、加工、品質管理、包装	1
ブラジル	パラ州	メディシランディア	②トランスアマゾンカ農協(COOPATRANS)	カカオ	輸出、農業資材、精密農業	3
ブラジル	パラ州	サンタイザベル・サントアントニオダウア組合(SINPRIZ)	③サンタイザベル・サントアントニオダウア組合(SINPRIZ)	養鶏、鶏卵、バナナ、アサイー、デンデヤシ	輸出、農業機械、精密農業	5
ブラジル	ペルナンブコ州	ベトロリーナ	④ノバリアンサ農協(COANA)	ぶどう	輸出	7
ブラジル	ミナスジェライス州	トゥルボランディア	⑤スルミナス農協(CASM)	すもも、アテモヤ、アボカド、デコボン、ドラゴンフルーツ、柿	肥料、種苗・品種、農業機械	9
ブラジル	ミナスジェライス州	サンゴタルド	⑥セラードブラジレイロ農協(Coopacer)	にんにく、にんじん、大豆、アボカド、コーヒー	品質管理	11

日系農業者・団体データベース一覧

青字は新規登録団体

No	国	州・県	市	団体名(日本語)	団体名(原語)	略称	農産物(活動内容)
1	ブラジル	パラ州	トマス	トマス農協	Cooperativa Agrícola Mista de Tomé-Açu	CAMTA	カカオ豆、アサイー、胡椒、ドラゴンフルーツ、クupas
2	ブラジル	パラ州	メディシランディア	トランスアマゾニカ農協	Cooperativa Agroindustrial da Transamazônica	COOPATRANS	カカオ
3	ブラジル	パラ州	サンタイザベルドパラ	サンタイザベル・サントアントニオダウア組合	Sindicato dos Produtores Rurais de Santa Izabel do Pará e Santo Antônio do Tauá	SINPRIZ	鶏肉、卵、バナナ、アサイー、パパイヤ、デンデヤシ
4	ブラジル	ペルナンブコ州	ペトロリーナ	ノバリアンサ農協	Cooperativa Agrícola Nova Aliança	COANA	ぶどう
5	ブラジル	ミナスジェライス州	トゥルボランディア	スルミナス農協	Cooperativa Agrícola Sul de Minas	CASM	スモモ、アテモヤ、アボカド、デコボン、ドラゴンフルーツ、柿、ピーマン
6	ブラジル	ミナスジェライス州	サンゴタルド	セラードブラジレイロ農協	Cooperativa de Agronegócios do Cerrado Brasileiro Ltda	Coopacer	にんにく、にんじん、大豆、アボカド、コーヒー
7	ブラジル	ミナスジェライス州	サンゴタルド	サンゴタルド地域協議会	Conselho da Região de São Gotardo	CRSG	にんじん、アボカド、にんにく、じゃがいも
8	ブラジル	ミナスジェライス州	サンゴタルド	アルトパラナイーバ農協	Cooperativa Agropecuária do Alto Paranaíba	COOPADAP	にんじん、とうもろこし、大豆、じゃがいも、にんにく、コーヒー、アボカド
9	ブラジル	マットグロッソスル州	カンボグランデ	バルゼアアレグレ農協	Cooperativa Agrícola Mista da Várzea Alegre	CAMVA	鶏卵、うずら卵、レモン、ドラゴンフルーツ、グアバ、アボカド、ボンカン/みかん
10	ブラジル	マットグロッソスル州	ナピライ	スルマットグロセンセ農協	Cooperativa Agrícola Sul MatoGrossense	Copasul	大豆、とうもろこし、キャッサバ、綿
11	ブラジル	サンパウロ州	イビウナ	イビウナ農協	Cooperativa Agropecuária de Ibiúna	CAISP	リーフレタス、ケール、玉レタス、ブロッコリー、キャベツ、白菜、エンダイブ
12	ブラジル	サンパウロ州	モジダスクレーゼス	モジダスクレーゼス農村組合	Sindicato Rural de Mogi das Cruzes	SRMC	葉野菜、きのこ、柿、観葉植物、アテモヤ・ピワ
13	ブラジル	サンパウロ州	ピラールドスル	APPC 農協/サンパウロ州柿生産者組合	Cooperativa Agroindustrial APPC / Associação Paulista Produtores de Caqui	APPC	ぶどう、デコボン、アテモヤ、柿
14	ブラジル	サンパウロ州	ピラールドスル	南伯ピラールドスル農協	Cooperativa Agrícola Sulbrasil Pilar do Sul	CASBPS	ぶどう、アテモヤ、柿、葉野菜
15	ブラジル	サンパウロ州	サンミゲールアルカンジョ	南伯サンミゲールアルカンジョ農協	Cooperativa Agrícola Sul Brasil de São Miguel Arcanjo	CASBSMA	ぶどう、びわ、柿、ドラゴンフルーツ、野菜、核果類(桃など)
16	ブラジル	サンパウロ州	レジストロ	レジストロ日伯文化協会	Associação Cultural Nipo-Brasileira de Registro	Registro	紅茶、緑茶、餅米、いぐさ、ジュサラパルブ
17	ブラジル	サンパウロ州	カッポンボニート	カッポンボニート農協	Cooperativa Agrícola de Capão Bonito	CACB	大豆、とうもろこし、小麦、フェイジョン豆、ソルガム、じゃがいも
18	ブラジル	サンパウロ州	グアタバラ	グアタバラ農協	Cooperativa Agrícola de Guataporá	COAG	鶏卵、養鶏用飼料
19	ブラジル	サンパウロ州	グアタバラ	JATAK 農業技術普及交流センター	Instituto de Pesquisa Técnicas e Difusão Agropecuária da JATAK	IPDA-JATAK	とうもろこし、大豆、落花生、サウキビ、ライチ、ドラゴンフルーツ、野菜、れんこん、にんにく、ベリー
20	ブラジル	サンパウロ州	バストス	バストス地域鶏卵生産者協会	Associação dos Produtores de Ovos de Bastos e Região	APROBARE	鶏卵、肉用牛、蜂蜜、落花生アボカド、ユーカリ・マホガニー、キャッサバ、豚
21	ブラジル	サンパウロ州	ミランドポリス	弓場農場	Associação Comunidade Yuba	Yuba	グアバ、マンゴー、椎茸、カボチャ
22	ブラジル	サンパウロ州	サンパウロ	ブラジル農協婦人部連合会	Associação Dos Departamentos De Senhoras Cooperativistas	ADESC	市場での農産物・加工品・弁当販売
23	ブラジル	パラナ州	カストロ	ウニオンカストレンセ農協	Cooperativa Agrícola União Castrense	UNICASTRO	大豆、とうもろこし、小麦、じゃがいも、キノコ
24	ブラジル	パラナ州	ボンタグロッサ	ボンタグロッセンセ農協	Cooperativa Agrícola Pontagrossense	Cooperponta	大豆、とうもろこし、小麦、オート麦、フェイジョン豆
25	ブラジル	パラナ州	ロンドリーナ	インテグラダ農協	Integrada Cooperativa Agroindustrial	Integrada	大豆、とうもろこし、小麦、コーヒー、オレンジ
26	ブラジル	パラナ州	ビトゥルナ	ビトゥルナマテ茶協会	Abem - Associação Biturunense da Erva Mate	ABEM	マテ茶
27	ブラジル	パラナ州	ノバアメリカダコリーナ	ノバアメリカダコリーナ地域果樹生産者組合	Cooperativa dos Fruticultores de Nova América da Colina e Região	Nova Citrus	オレンジ、アボカド(ハス)、パパイヤ
28	ブラジル	サンタカタリーナ州	サンジョアキン	サンジョアキン農協	Cooperativa Agrícola de São Joaquim	SANJO	りんご、ブルーベリー、ぶどう、フェイジョア
29	ブラジル	サンタカタリーナ州	フレイロジェリオ	ラーモス果樹生産者地域連合	União Regional dos Produtores de Fruta	UNIFRUTA	にんにく、梨、大豆、桃、とうもろこし

30	アルゼンチン	ミシオネス州	ハルディンアメリカ	ハルディンアメリカ生産者組合	Cooperativa Yerbatera de Jardin América Ltda.	Jardin América	マテ茶、キャッサバ、きゅうり、ミニコーン、パパイア
31	アルゼンチン	ブエノスアイレス州	ラプラタ	メルコフロール花卉生産者組合	Cooperativa de Productores de Flores y Plantas Mercoflor	Mercoflor	切花、鉢物
32	アルゼンチン	ブエノスアイレス州	ブエノスアイレス	エコフロール花卉農協	Establecimientos Cooperativos Florícolas	Ecoflor	切花、観葉植物・花の苗・果物
33	パラグアイ	アマンバイ県	ペドロファンカパレリヨ	アマンバイ農協	Cooperativa Amambay Agrícola	Amambay	大豆、とうもろこし
34	パラグアイ	イタプア県	ラパス	ラパス農協	Cooperativa La Paz Agrícola	La Paz	大豆、小麦、とうもろこし、ひまわり
35	パラグアイ	イタプア県	ピラポ	ピラポ農協	Cooperativa Pirapó Agrícola	Pirapó	大豆、小麦、なたね、とうもろこし、もろこし
36	パラグアイ	パラグアリ県	ラコルメナ	コルメナアスンセーナ農協	Cooperativa Agro-Industrial Colmena Asuncena	CAICA	トマト、ピーマン、レモン、メロン、ぶどう
37	パラグアイ	アルトパラナ県	イグアス	イグアス農協	Cooperativa Yguazu Agrícola	Yguazu	大豆、とうもろこし、小麦、マカダミアナッツ、肉用牛
38	パラグアイ	アルトパラナ県	イグアス	パラグアイ農牧総合試験場	Fundación Nikkei CETAPAR	CETAPAR	トマト、レタス、ピーマン
39	パラグアイ	アスンシオン市	フェルナンドデラモラ	パラグアイ日系農協中央会	Central Cooperativa Nikkei Agrícola	Chuokai	農協行政手続き、融資、指導・研修、農牧総合試験場運営
40	ポルビア	サンタクルス県	オキナワ	コロニアオキナワ農協	Cooperativa Agropecuaria Integral Colonias Okinawa	CAICO	大豆、小麦、米、とうもろこし、ソルガム
41	ポルビア	サンタクルス県	サンファン	サンファン農協	Cooperativa Agropecuaria Integral San Juan de Yapacani	CAISY	卵、米、大豆、とうもろこし
42	ペルー	リマ県	ウアラル	エスキベル農畜産物生産者協会	Asociación de Productores Agropecuarios de Esquivel	APAE	飼料用とうもろこし、コリアンダー、にんじん、さつまいも、ピーズ
43	ペルー	リマ県	カニエテ	ペルー日系人協会カニエテ	Asociación Peruano Japonesa de Cañete	APJ Cañete	ぶどう、みかん、アスパラガス、ブルーベリー
44	コロンビア	バージェデルカウカ州	カリ	コロンビア日系人協会	Asociación Colombo Japonesa	ACJ	サトウキビ、トウモロコシ、大豆、綿花、タヒチレモン
45	メキシコ	チアパス州	アカコヤグア	アカコヤグア江戸村協会	Asociación Edomura A.C. de Acacoyagua	Edomura	マンゴー、マンゴスチン、ランブータン、米、エスクミテ豆、グアナバナ

トメアス農協の例

①トメアス農協 CAMTA

困難を乗り越えた歴史・配慮・持続性の CAMTA プラント



記入: 2025/02/28, Tomé-Açu/PA

[1] 組織の概要

団体名	トメアス総合農業協同組合 CAMTA Cooperativa Agrícola Mista de Tomé-Açu		
代表者名	Alberto Ke-In Oppata		
組合員人数	168 人	組合員人数	200 人
設立年	1949 年	年間売上	110,000,000.00 BR
組合員紹介	【歴史】1949 年にパラナ州トメアスで設立されたトメアス農業協同組合 (CAMTA) は、同地域における日本人移民の歴史から生まれました。90 年以上にわたってトメアス・アグロフォレストリーシステム (SAFTA) の開発により、持続可能な農業の国際的なモデルとして注目されています。このシステムは、革新と伝統的な知恵を組み合わせた、農業生産と環境保全のバランスを追求する CAMTA の歩みを象徴しています。 【活動】CAMTA は、カカオ、胡椒、アサイー、クプアス、熱帯果実などの持続可能な栽培を行い、家族経営の農家に短期、中期、長期の収入をもたらしています。特に、日本政府の支援により設立されたカバ加工施設は年間 5,000 トンの生産能力を持ち、地域の付加価値を高めています。また、CAMTA は食料安全保障、環境保護、伝統的な知識の尊重にも力を入れています。 【展望】CAMTA は、収益創出、環境保全、社会的包摂を統合した持続可能な生産のグローバルモデルとすることを目指しています。SAFTA を通じて、革新的な手法を拡大し、地元生産チェーンを強化し、他の地域にも同様のモデルを広めることで、より均等な取組の機会を確保し、持続可能な未来を築くことを追求しています。		
住所	Avenida Dionísio Bentes, 210, Bairro Centro, Tomé-Açu, Pará, Brazil		
電話番号	+55 91 99144-6166		
E-mail	analistasistema@camta.com.br		
ウェブサイト	www.camta.com.br		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	カカオ豆	1381 ha	450	2024
(2)	アサイー	816 ha	6880 t	2024
(3)	胡椒	400 ha	422t	2024
(4)	ドラゴンフルーツ	375 ha	157 t	2024
(5)	クプアス	824 ha	1800 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	播種/剪定(1)	収穫(1)	播種/剪定(2)	収穫(2)
(1)	カカオ豆	1 月 - 4 月	5 月	8 月 - 11 月	9 月
(2)	アサイー	1 月 - 4 月	11 月	1 月 - 2 月	4 月
(3)	胡椒	1 月 - 4 月	7 月	1 月 - 2 月	7 月
(4)	ドラゴンフルーツ	11 月 - 1 月	1 月	6 月 - 11 月	7 月
(5)	クプアス	1 月 - 4 月	2 月	1 月 - 4 月	2 月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	果物パルプ	日本、フランス、ドイツ	1655 t
(2)	カカオ豆	日本	0 t
(3)	胡椒	アルゼンチン、日本	422 t

2-4 農業生産以外の活動

	Tópico	Conteúdo
(1)	農業資材・研修	果物パルプ(アセロラ、アサイー、パイナップル、カシュー、クプアス、グァバ、サワーソップ、マンゴー、バシラニール、ドラゴンフルーツ、ムルベリー、タピオカ)

[3] 日本企業との取引

3-1 日本企業との取引状況

CAMTA は果物パルプ、胡椒、カカオアーモンドの取引を行っています。20 年以上も日本市場と取引を行っており、日本の行政や民間企業からの援助や協力のもと高品質な商品の生産に取り組んでいます。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	認証	果物パルプ	国際市場での競争力を上げ、より高品質で安全性の高い商品を生産	研修の導入、生産工程の資料化や効率化、商品トレーサビリティの構築など技術への投資
(2)	保管	果物パルプ	冷凍庫の最大保管容量に達してしまっ	商品の冷凍保存用エリアの最適化と増築
(3)	加工(カット・乾燥)	果物パルプ	果物パルプの最大パッキング量が不十分	より高品質な商品製造のため生産増加を効率的に可能にする新しい包装機への導入に投資
(4)	腐敗・品質	カカオ	SAFTA で導入しているカカオ樹を病 (Monilophthora perniciosa) に強く、より生産性の高いものとの交換に投資	
(5)	環境対策	有機ミネラル肥料 製造過程で出る液体廃棄物の処理	環境への負担と化学農薬使用量の削減。 現在のシステムよりも環境への負荷が少ない処理方法での提案。	農業生産によって生み出される廃棄物の有効活用や化学農薬の使用量の削減によって環境負荷を減らすため、有機ミネラル肥料の生産技術導入に投資。 水処理センターの改善・増築プロジェクトへの投資。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

工機生産をリアルタイムで監視・管理し、インダストリー4.0 の導入により生産品の品質向上やコスト削減、炭素クレジット販売システムの導入。CAMTA はアグロフォレストリー分野の研究・開発団体との連携を通じて「トメアスアグロフォレストリーシステム (SAFTA)」の認知度を拡大したいと考えている。商業的パートナーシップや環境保全・持続可能な生産率に関心のある投資家からの協力を通して果物パルプの需要を拡大したい。SAFTA から産出される炭素クレジットの販売を可能にしたい。



農業資材店正面



果物パルプ



CAMTA 本部正面



アサイー (アセロラ)



移民90周年記念バナー



コショウ

(8) 中南米への食産業展開・輸出促進セミナーの開催

日本のアグリ・フードテック関連の技術・ノウハウを活用した FVC の構築を通じ、我が国食産業の海外展開を推進し、海外需要の獲得を目指すとともに、我が国の農林水産物・食品の輸出促進を図るため、グローバル・フードバリューチェーン（GFVC）推進官民協議会の中南米部会として「中南米への食産業展開・輸出促進セミナー」を以下のとおり開催した。

1) 基本情報


日程	令和 7 年 3 月 14 日（金）9:00-10:30（日本時間）
場所	オンライン（Teams）
参加者	合計：61 名 参加団体：53 名（商社 7 名、メーカー 17 名、コンサルタント 4 名、その他 10 名、公的機関 15 名） 関係機関：8 名（JETRO、Comercial Toyo 社、農林水産省、事務局） ※参加登録者はセミナー後に録画視聴も可能としたため、参加人数は参加登録者の人数とした
内容	<ul style="list-style-type: none"> - 中南米地域における我が国の食産業展開や日本産食品の輸出、現地事情等に関する情報について紹介するセミナーとして開催。 - 今回は特にブラジル以外の中南米における日本食市場の状況について、各国の JETRO（アルゼンチン、ペルー、メキシコ）から紹介した。 - 民間企業からの発表として、Comercial Toyo 社（コメルシアルトヨ）よりメキシコにおける日本食品輸入の現地事情の紹介を行った。
言語	日本語

2) 参加者

商社(7)	株式会社パピアパペル(1)、東洋貿易株式会社(1)、Mutual Trading(1)、木徳神糧株式会社(1)、JA 全農インターナショナル株式会社(1)、Comercial Toyo (2)
メーカー(17)	鎌田醤油株式会社(1)、株式会社朝一番(1)、小林食品株式会社(1)、藤和乾物株式会社(1)、株式会社八葉水産(1)、株式会社 J-オイルミルズ(1)、株式会社川原茶業(1)、株式会社南山園(1)、大紀産業株式会社(1)、(株) クボタ(2)、パナソニック株式会社(1)、(株) Mizkan(1)、東洋ナッツ食品株式会社(1)、あづまフーズ株式会社(1)、株式会社ウーケ(1)、(株) いまる井川商店(1)
コンサルタント(4)	株式会社スタンデージ(1)、K'S K s.p.(1)、株式会社マルコネクト(1)、株式会社高橋リサーチ&コンサルティング(1)
その他(10)	ブラジル銀行東京支店(1)、株式会社 Meguris(1)、大島経営研究所(1)、Japan System Co., Ltd.(1)、(公財) 日本財団(1)、株式会社 JTB(1)、ラテンアメリカ協会(1)、福井県立大学(1)、拓殖大学(1)、NTT Data(1)
公的機関(15)	JETRO(5)、株式会社海外需要開拓支援機構(1)、関東農政局(1)、東海農政局(1)、外務省(1)、在メキシコ日本国大使館(1)、在アルゼンチン日本国大使館(1)、在コロンビア日本大使館(1)、在ボリビア日本国大使館(2)、在パラグアイ日本国大使館(1)、
関係機関(8)	JETRO(3)、Comercial Toyo (1)、農林水産省(2)、事務局(2)


3) プログラム

No.	時間	内容	担当
1	9:00	開会	事務局
2	9:00-9:10	挨拶	農林水産省 輸出・国際局 新興地域グループ 国際専門官 池田 幸介
3	9:10-10:30	中南米各国における日本食輸出促進の取組	
	9:10-9:30	アルゼンチンの日本産食品市場	ジェトロ・ブエノスアイレス事務所 所長 西澤 裕介
	9:30-9:50	2025 年ペルー市場アクセスのヒント	ジェトロ・リマ事務所 所長 石田 達也
	9:50-10:10	メキシコにおける日本食材・メキシコ事務所取組	ジェトロ・メキシコ事務所 貿易促進ダイレクター 深澤 竜太
4	10:10-10:30	民間企業の事例	
	10:10-10:30	日本産食品のメキシコへの輸入	Comercial Toyo 社 購買部 日本担当 鎌田 智子
5	10:30	閉会	事務局



農林水産省
農林部

中米市場 米生産自給率改善と輸入安定確保に向けた政策の展開（2018年度）



中国国境検疫所
GACC 中国国境検疫所

中米南米への食産業展開・輸出促進セミナー

日時	中国国境検疫所	農林部
10月1日	① 開会	
10月10日	② 閉会	農林部長 堀内 良雄氏 特別講演「中国米市場の現状と今後の展望」
10月10日	③ 中米南米産米（米、米穀）の品質検査と検疫手続	
10月10日	④ 中米南米の食料安全保障と食料政策	Ministry of Agriculture and Forestry 農林部 部長 堀内 良雄氏
10月10日	⑤ 中国米市場の現状と今後の展望	Ministry of Agriculture and Forestry 農林部 部長 堀内 良雄氏
10月10日	⑥ 中国米市場の現状と今後の展望	Ministry of Agriculture and Forestry 農林部 部長 堀内 良雄氏
10月10日	⑦ 中国米市場の現状と今後の展望	Ministry of Agriculture and Forestry 農林部 部長 堀内 良雄氏
10月10日	⑧ 中国米市場の現状と今後の展望	Ministry of Agriculture and Forestry 農林部 部長 堀内 良雄氏
10月10日	⑨ 中国米市場の現状と今後の展望	Ministry of Agriculture and Forestry 農林部 部長 堀内 良雄氏
10月10日	⑩ 中国米市場の現状と今後の展望	Ministry of Agriculture and Forestry 農林部 部長 堀内 良雄氏



日本からの農林水産物輸出状況
(2022年二国間貿易実績、農林水産省)

87位
1億円
うち農産物0.4億円(51.9%) 林産物0.002億円(0.3%)
水産物0.4億円(47.8%)

輸出額の多い品目：
種播用の種
さめ (生鮮・冷凍・冷凍、ふかひれ (生鮮・冷凍・冷凍・凍結・凍結)
ソース混合調味料
アレルギー用飲料

セミナー開始案内

[illegible]

JETRO メキシコ発表

JETRO ブエノスアイレス発表

COMMERCIAL TOYOについて

- 1982年創業
- メキシコ全土に78拠所
- 従業員数 659人
- 日本及びアジア資材、車両、キッチン関係商品の輸入、卸売、小売販売、メキシコ食料材店

※日本の大手デパート・百貨店グループ

Comercial Toyo 発表

JETRO リマ発表

4) 要旨

農林水産省挨拶

- 農林水産省は現在、日本の農林水産物の輸出の拡大に取り組んでおり、2030年までに5兆円という輸出額を目標として設定。日本の農林水産物・食品が持続的で強い産業であり続けるためには、海外市場への進出と輸出先の多角化が重要であり、民間企業の方々の参加が欠かせない。
- 中南米諸国では日本の農林水産物の輸出はまだ少ない。多くの日系人がおり、日本とは価値観も近く輸出拡大のためのポテンシャルが高い地域。中南米地域の魅力をより発信していく。

ジェトロ・ブエノスアイレス事務所：アルゼンチンの日本産食品市場

- アルゼンチンにおける日系人数は約65,000人。飲食店ビジネスに携わっている方が多い。日本産食品の輸入金額は少なく、2024年時点で735,546ドル。ブラジルやアメリカ産の日本食品もある。飲料(アルコール)の輸入が近年増えており、2024年の輸入額は前年度に比べて74.9%増加。日本産食品のインポーターはまだまだ限られている。
- 日本食材は大手スーパーマーケットチェーン、中華街、日本食品専門店、グルメ食品専門店で販売されており、小売り価格にはばらつきはあるが、概ね日本の価格の3~7倍で販売されている。
- 輸入が少ない理由として価格、景気、食文化が挙げられるが、主な理由は輸入代金の支払い。2023年以前は、輸入許可が下りて通関から180日後に輸入代金を支払うという厳しい状況だった。現在は規制法も改善されており、通関から30日経過後に輸入代金の支払いが出来るようになった。

ジェトロ・リマ事務所：2025年ペルー市場アクセスのヒント

- 日本からは主に水産物、調味料、アルコールを輸入。輸入金額は全体で1億円程度。
- ペルーに進出するタイミングとして成長率を見ると、コロナ禍、世界的なコスト高、エルニーニョの影響により厳しい状況が続いていたが、2024年から徐々に改善。
- 一般のペルー人の間では日本食品の認知度は低く、例えば日本米の炊き方や日本の調味料の使い方などが分からないというのが実態。課題となるのは現地の大手・小売りへのアクセス。経営者たち、そしてペルーの消費者に日本食材の使い方をまず知ってもらうことが必要。

ジェトロ・メキシコ事務所：メキシコにおける日本食材・メキシコ事務所取組

- メキシコにおける日系人数は約2万人(世界7位)。進出日系企業拠点数は1498(世界で11位)。
- 継続的に日本食材を輸入しているインポーターは限られている。現在11社あり、そのうちの3社に特に集中。2023年に日本産精米の輸入が解禁。ただし一般のメキシコ人は炊き方や使い方が分からないため、ワークショップ等を通して教えるという取り組みが必要。
- 日本産和牛への関心は高まりつつあるが、アメリカ産やオーストラリア産の和牛も入っており、日本産との違いを紹介する必要がある。近年ラーメン屋が増加。そしてホタテが「hotate」として浸透。
- メキシコへ輸入する際に特に重要となるのは賞味期限。1年以上のものがベスト。
- JETROメキシコ事務所の取り組み: 飲食店にてホタテを紹介するワークショップ、東北産水産品の試食会、精米・酒類のプロモーション等。

Comercial Toyo社（メキシコ）：日本産食品のメキシコへの輸入

- 1982年に日本人により創立。メキシコ全土に78拠点。従業員数は659人。そのうち、30人が日本人。日本およびアジアの食材、酒類、キッチン関係商品等と輸入。
- 日本食はメキシコで大変人気：7120件のレストランがあり（世界5位）、人気メニューはすし、ラーメン、春巻き等。
- 日本食は、一食あたり日本の1.5倍から2倍ほど。安いものではないが、メキシコ料理でもレストランで2000円以下では食べられない。また、イタリア料理も3000円からと、日本食だけが高いわけではない。
- メキシコへの輸出：横浜からコンテナが出て店に並ぶまで約3か月。賞味期限は1年が理想。場合によっては、10か月程度でも可能。
- 小売りに関しては、日本の商品は韓国に負けている。インスタントラーメン、カップラーメンなどは韓国から月10コンテナを輸入。日本の商品でここまで勢いのあるものはなく、改善する必要がある。

5) アンケート結果

開催後に参加者へのアンケートを実施した。回答は参加団体 53 名の内、30 名から得た（回答率 57%）。アンケート結果の概要を下記に示す。

■ 質問 1：アンケート回答者の業種

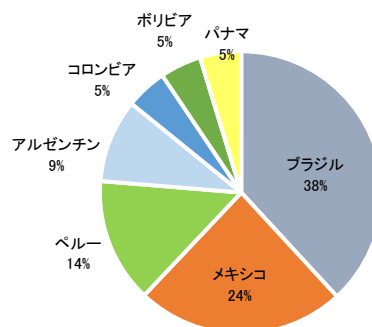
業種	回答数
食品製造	8
政府機関	8
商社	3
サービス	3
流通（卸・小売含む）および外食	3
IT	2
団体	1
機械	1
その他	1
合計	30

■ 質問 2：現在の中南米との業務状況

状況	回答数	割合
現在、既に業務を行っている	13	43%
将来、業務展開することを計画している	8	27%
未定である	9	30%
合計	30	100%

■ 質問 3：質問 2「現在、既に業務を行っている」又は「将来、業務展開することを計画している」との回答での対象としている具体的な国名（複数回答）

国名	回答数
ブラジル	8
メキシコ	5
ペルー	3
アルゼンチン	2
ボリビア	1
コロンビア	1
パナマ	1



■ 質問 4：本セミナーの評価

たいへん良かった	16
良かった	14
どちらとも言えない	0
あまり役に立たなかった	0
役に立たなかった	0

■ 質問 5：上記の評価を選んだ理由（抜粋）

- たいへん良かった
- 現地の今の市況や課題を客観的に知ることができた。
 - 輸出の可能性がわかることがわかった。特に業者の率直な意見を聞いたのがよかった。
 - 各地域でのマーケット特性、消費者の嗜好、輸出入の規制課題など3か国を網羅的に確認することが出来、勉強になりました。またComercial Toyo社様においては、現地卸売り目線での市場の見方や今後の可能性を示して頂い

たことで、メキシコ市場への向き合い方における参考になりました。各国のローカルの有力インポーター、卸売り、小売店、レストランへの展開についても今後考えて参ります。

- 現地の情報、ニーズ、インポーター、ディストリビューターの情報、商流の流れ、賞味期限の情報等が分かりやすかった。
- 現在、アルゼンチンとメキシコ、ペルーからオファーを頂いております。日本から遠く離れている国でなかなか現地に行く事ができませんが、今日のセミナーで色々と学ぶ事ができました。

良かった

- メキシコのレストラン価格が高いことを知ることができた。商品のニーズについても分かった。市場として魅力的と感じた。
- それぞれの国における現状と今後の可能性、質問に対する的確な回答がよかった。
- ポイントが明確でわかりやすかったです。
- 中南米は情報がなかったので全て新鮮でした。
- アルゼンチンのカントリーリスクやメキシコマーケットの具体例等がうかがえたこと。
- 今後中南米地域の農作物の輸出入を行うにあたり、有益な情報だったと思います。
- それぞれ国の概要や、実際にメキシコへの輸入を行っている企業様のお話が聞けたので、すべて有益でした。

■質問 6：本セミナーで興味を持ったテーマ（複数回答）



■質問 7：上記のテーマを選んだ理由（抜粋）

- 同じスペイン語圏でもそれぞれ特徴などが異なるので、一度に色々な国の情報を比較しながら得られてよかった。
- 日本食品のプレゼンスを指摘していた。アジア食品の潮流やトレンド、販売ヒント、トランプ政権下の変化などマクロからミクロまで筋を話されており、とても参考になった。
- 中南米はあまり情報がないため、現地の生情報に触れることができました。
- 中南米進出を計画しており、現地の生の情報を知りたかったため。
- 今後中南米地域の農作物の輸出入を行うにあたり、有益な情報だったと思います。
- まだ輸出した実績がない国であり、市場がわからなかったため。
- 各国JETRO様より、各国・地域でのマーケット特性、消費者の嗜好、輸出入の規制課題など3か国を網羅的に確認することが出来、勉強になりました。個別の日本製品の受け入れ状況なども各国により違いがあり参考になります。
- ボリビアは内陸国であるため、上記3カ国と比較して流通インフラ面で日本からの輸入が難しい面もありますが、中南米におけるトレンド（韓国製品の台頭など）の共通点なども知ることができ、非常に参考になる情報でした。
- それぞれ国の概要や、実際にメキシコへの輸入を行っている企業様のお話が聞けたので、すべて有益でした。特に業者の率直な意見を聞けたのがよかった。

■質問 8,9：今後取り上げて欲しいテーマ、セミナーに関する意見・要望（抜粋）

- 現地企業への売り込み、日本からの物流構築のヒントが得られるようなセミナーがあればと思います。現地のディストリビューターさんの講演も聞きたいです。
- ローカル流通企業から見た、日本食品と可能性、現状扱い。
- 北米と南米に挟まれた、中米諸国の日本との関係性や、今後のビジネス展開の可能性などについても勉強出来ればと存じます。
- アルゼンチンやペルーの現地の声を聞きたい。
- ①Comercial Toyo社(メキシコ)の購買担当者も言っていたように、近隣諸国またはライバル企業との違いや工夫、アイデアのヒント。②現地の購買担当のセミナー。